

令和4年度食品ロス削減総合対策事業のうち
食品ロス削減推進事業

フードバンク活動マッチング支援事業 報 告 書



令和5年3月

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

目次

1. 事業の目的	2
2. 令和2,3年度の振り返り	3
3. 令和2年度、3年度の事業を終えた際の課題	3
4. マッチングが適している食品と組織形態	4
5. マッチングシステム実用に向けて	5
6. 令和4年度マッチングシステム構築の取り組み	6
7. マッチングシステムの概要	10
8. マッチングシステムフロー	11
9. 事業者画面	13
10. 利用者画面	15
11. 管理者画面	18
12. マッチングシステムの機能と特徴	22
13. 今後のマッチングシステムの利用について	22
14. 3年間の支援事業を終了するにあたり	23

1. 事業の目的

＜事業の目的＞

「令和4年度食品ロス削減総合対策事業のうち食品ロス削減推進事業」を行うにあたり以下の目的を掲げた。「本事業の目的は、食品の提供者（メーカー・流通企業等）の未利用食品の有効活用の促進のために、フードバンク活動における供給側の供給情報と受入側の需要情報等を一元的に管理できるマッチングシステムの構築・実証に向け、検討会の開催、マッチングシステムの構築、実証・調査、報告書の作成を行うことである。」



当法人の食支援「ビーバーリンク」の活動

2. 令和2、3年度の振り返り

＜令和2年度～フードバンク団体へのアンケート調査とシステム構築、実証実験＞

マッチングシステム構築にあたり、全国のフードバンク団体、生活協同組合にwebアンケートを実施し、支援団体の現状の課題とマッチングシステムへの期待を調査した。またマッチング支援事業に参加するシステム会社3社がビーバーリンク開催当日とフードバンクかながわを視察、当法人事務局へのヒアリングを実施した。

上記からマッチングシステムを試作し、当法人のビーバーリンクで実証実験を行った。初年度はアンケートを実施し考察したほか、システム会社と認識の共有化を図り、マッチングシステムを構築、その実証実験となった。

＜令和3年度～大型フードバンクでの利用と冷凍冷蔵商品への対応と検討＞

前年度の取り組みを受けて、システムの改善と全国のフードバンク団体や企業も活用できるシステムの構築を目標とした。全国各地の大規模なフードバンクでも活用できること、また冷凍・冷蔵・青果など異なる温度帯の食品取り扱いが可能であること、そして入力とマッチング作業が効率的にできることをめざしてシステムの改修を行った。

その後の実証実験では全国各地の大規模なフードバンク団体に参加いただき、マッチングシステムの使用感や操作性、さらにシステム利用の意向について調査を実施。これらシステム構築を行い、他のフードバンクや食品提供の企業と意見交換や交流を重ねた。

3. 令和2年度、3年度の事業を終えた際の課題

＜最前線の子ども食堂やフードバンクには本マッチングシステムの負担が課題＞

システム構築に関わった2年間に当法人の食支援「ビーバーリンク」も活動内容が充実し食品取扱量も拡大した。実際の食支援への関わりをつうじて、当法人とビーバーリンク参加団体である子ども食堂やフードバンク団体との意見交換で、本事業で構築したマッチングシステムの課題を以下で認識した。

- 当法人および実証に参加した団体、当法人と食支援を連携する団体においては、支援にあたり情報を入手してから使用するまでの期間は短い。さらに少量・多品目を取り扱うため、システム入力や調整で、かえって時間を要することがある。
- ビーバーリンクでは当法人が青果や冷蔵品を数量に応じて、当法人が配分を決定し各団体に提供しているが、本システムをつうじたマッチングでは、利用団体の希望数量をもとに配分するため、希望数が入力されるまで時間がかかる。画面の操作、入力、希望数の集約の手間を考慮すると、システムを用いない方が負担は少ない面がある。視察にうかがった各地のフードバンク団体でも同様の意見があった。
- 当法人の食支援に参加する団体では参加集約など、メールやLINE、facebookなどコミュニケーションツールの活用は積極的に行われていた。これらは個人のスマートフォンでメッセージを送るだけであり、画面の操作、入力の手間を考慮すると、システムを用いるより負担が少ない面がある。

4. マッチングが適している食品と組織形態

＜大量に発生し、利用できる団体が限られる防災備蓄品は マッチングシステムが適している＞

子ども食堂や地域フードバンク団体との食品提供にはマッチングシステムは不向きであるが、防災備蓄品の活用では使えると考えた。その理由として

- 防災備蓄品は少ない種類で一度に大量の提供もあることから、事前に使える団体とのマッチングが必要。防災備蓄品は調理して提供する子ども食堂ではあまり好まれない傾向があるが、フードパントリーなど配布型の活動団体では活用いただいている。
- 防災備蓄品は全国各地で入れ替え時に発生し、提供数も大量なことが多いため、各地域の中間層のフードバンクとの調整で使えるのではないかと。中間層のフードバンク団体は事務局スタッフがいる場合が多く、システム入力への抵抗感は少ない。
- 大量に提供いただいた場合、一団体だけで消費できないことも多く、複数団体とマッチングする場面がある。これにより防災備蓄品の有効活用も可能となる。

＜令和4年度のマッチングシステム構築にあたっての検討＞

マッチングシステムの活用について、全国各地のフードバンクでの活用の可能性、また各団体ですでに使っているシステムはどのようなものがあるのか、防災備蓄品のニーズは、などフードバンクと意見交換を行った。ここから防災備蓄品のマッチングを事業化し、マッチングシステムにおける手数料収入をシステム運用の経費に充当することを検討した。

- 6月 フードバンク山梨訪問 認定NPO法人フードバンク山梨にて既存のクラウドサービスでの在庫管理など説明を受けた。
- 9月 福岡県フードバンク協議会訪問 一般社団法人福岡県フードバンク協議会にて独自に開発したマッチングシステムの説明と現状について説明を受けた。
- 10月 フードバンク愛知、セカンドハーベスト名古屋訪問 NPO法人フードバンク愛知でマッチングシステムのニーズについて意見交換。認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋でシステム導入について意見交換を行った。



地域の中核的なフードバンク団体「フードバンク山梨」

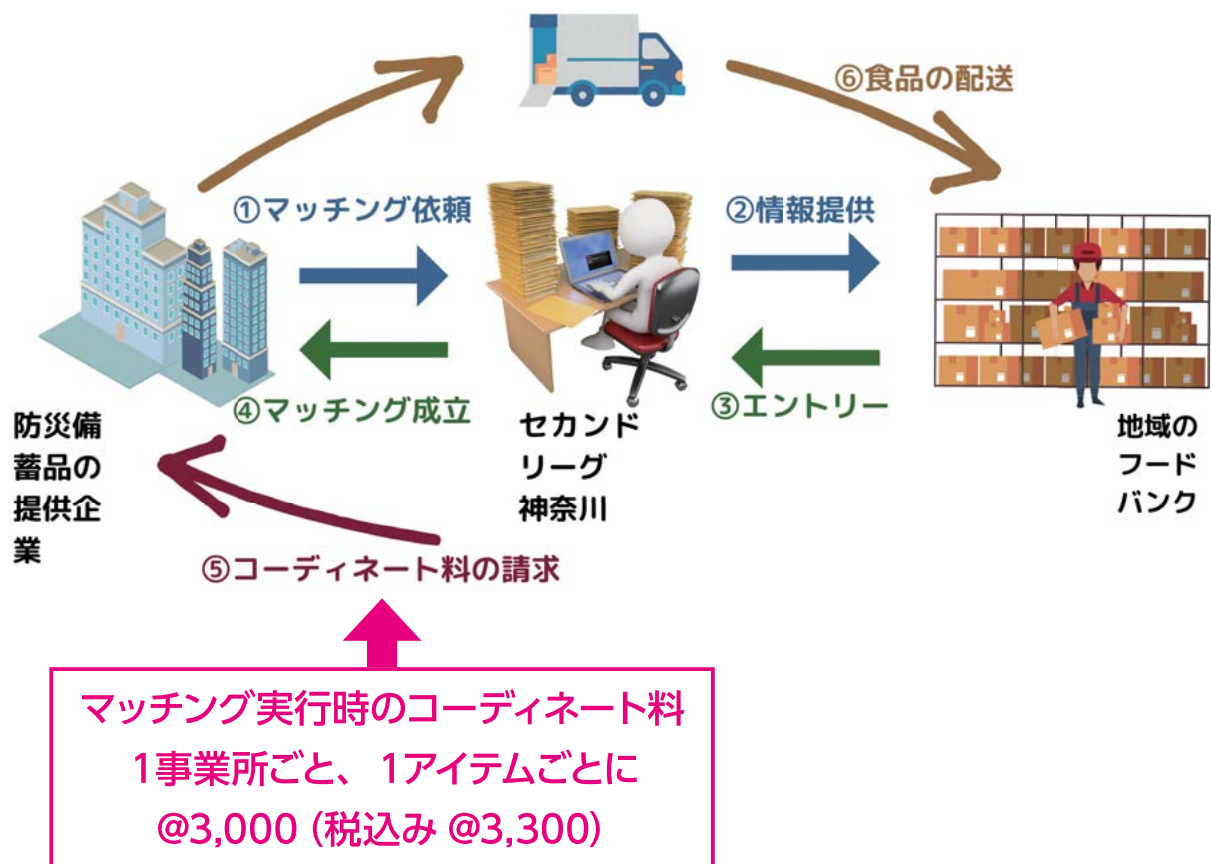
5. マatchingシステム実用に向けて

< 支援事業終了後のシステム運用の課題 >

令和4年度までは農林水産省の支援事業の中でマatchingシステムのランニングコストの支援があった。この事業は令和4年度で終了し令和5年度以降、当法人がマatchingシステムを運用する。そのため、クラウドサービスのサーバー使用料、システム会社による保守サービス料、認証やセキュリティに関する費用など年間80万円程度の費用負担が必要となることが課題となっている。

< 防災備蓄品マatchingコーディネートの事業化 >

この費用負担を食品提供元である企業にお願いできないか検討。防災備蓄品の新旧入れ替え時の旧備蓄品を支援団体に引き渡すマatchingを事業化し、マatchingシステム運用の費用に充てることとする。企業から防災備蓄品入れ替え時の旧備蓄品の提供を申し出ていただき、当法人が利用できる団体とマatching。マatching成立後、食品提供企業にコーディネート料をいただき、マatchingシステムの運営費の一部に充てる。



6. 令和4年度マッチングシステム構築の取り組み

＜今年度のシステム構築開始にあたっての課題＞

令和4年度のシステム構築を前に、過去2年間の実証実験とアンケート、ビーバーリンクの場を通じて、子ども食堂や市民に直接的に支援を行うフードパントリー団体にとって、都度システムにアクセスし調整を待つマッチングシステムはかなり煩雑との声があった。

＜新たな使用形態＞

上記の課題について、子ども食堂など支援現場に近い団体をシステムの利用者として想定せず、企業提供の防災備蓄品を当法人がシステム運営者となり、各地の中間層のフードバンク団体を利用者として想定することとした。また品目も防災備蓄品は常温品であることから、システムを利用する場面も絞り込むことができた。

＜プロジェクト管理の支援＞

令和4年度のプロジェクトにあたり実務者会議のメンバーである富士通Japan社に、一参加者より上のプロジェクトマネジメント業務の補助の役割を依頼し、お引き受けいただいた。これによりピープルソフトウェア社に作業内容の調整を行っていただいたほか、プロジェクトのスケジュール管理も行っていただいた。富士通Japan社のスケジュール管理のもと、パルシステムグループのセキュリティ管理からマッチングシステムのURLにアクセスできるよう、ソレキア社で対応いただいた。当法人もシステム構築の担当を明確化し、再度、システム構築に着手していった。

あらためて食品マッチングの対象と利用団体を設定しなおし、マッチングシステム構築検討会や実証実験などシステム構築の作業にあたっていた。

＜令和4年度マッチングシステム構築検討会＞

令和4年度はマッチングシステム構築検討会をオンライン会議で5回実施した。検討会は当法人とシステム会社3社と特に関係の強い企業、組織、フードバンクで構成し、システム構築の進捗状況と課題、今後の対応など報告と意見交換を行った。また、フードバンクに関わる団体や機関、関係のある組織に声がけをし、オブザーバー参加もいただいた。検討会では当法人の関わるフードバンクマッチングシステムの構築状況を関心のある組織や団体に開示した。

＜マッチングシステム構築検討会メンバー＞

富士通Japan株式会社

ピープル・ソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

公益社団法人フードバンクかながわ

株式会社横浜岡田屋

生活協同組合パルシステム神奈川

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

< マッチングシステム構築検討会オブザーバー >

農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室

神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課

横浜市資源循環局 3R推進課

日本生活協同組合連合会 組織推進本部 社会・地域活動推進部 サステナビリティ推進グループ

パルシステム生活協同組合連合会 地域活動支援室

< マッチングシステム構築検討会開催状況 >

● 7月25日（月） 第1回検討会

今までの振り返りと今年度の計画を説明。システム構築にあたり、課題な部分と、防災備蓄品に注力したシステムとしたいこと報告した。システム運営費とその捻出先など意見交換した。

● 9月28日（水） 第2回検討会

福岡県フードバンク協議会でのマッチングシステム利用状況、フードバンクかながわのシステム状況など報告と共有した。システム構築の支援として富士通Japan社にマネジメント支援をいただくことを報告した。

● 11月1日（水） 第3回検討会

前回よりシステム導入のマネジメント支援に加わっていただいた富士通Japan社よりマッチング作業のフロー、今期の改修ポイントを説明いただいた。ほか、この間の作業進捗状況を共有した。

● 12月8日（木） 第4回検討会

この間すすめた画面の文字修正やアラート機能など、改修を進めている点を説明した。改修のイメージを要件一覧の項目をもとに説明した。要件一覧で改修の優先度を明示、予算内で何を行うかを確認した。実証実験のイメージも伝えた。

● 2月10日（金） 第5回検討会

実証実験の概要説明と気づき、その対応を説明した。またマッチングシステムを実際のサイトに提供者、利用者、管理者のIDでログインし、どのような操作内容となるのか見ていただいた。



当法人による提供いただいた防災備蓄品の輸配送

< 実務者会議 >

検討会と別に当法人とシステム会社で実務者会議を開催した。実務者会議はシステム構築に関する打ち合わせであるが、メールでの連絡とは別に主にオンライン会議でやり取りを行い、課題認識の目線合わせや問題点の説明と対応を協議した。

< 実務者会議メンバー >

富士通Japan株式会社

ピープル・ソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

< 実務者会議日程 >

- 今期開催した実務者会議で、システム会社担当者とマッチングシステムの現状と当法人の使用イメージや実運用との差について説明と意見交換を行った。
- 上記から改修対応の優先度を判断し、今回の修正内容の確定を行った。
9月22(木)、26(月)、28(水)、10月5(水)、6(木)、12(水)、21(金)、26(水)、28(金)
- 実務者会議後期でマッチングシステムの修正作業と修正後の確認を行った。
- また当法人のシステム環境でシステムが動作するよう、セキュリティ対策の適用除外の作業を行った。
- 実証実験での課題や障害について共有し、対策を依頼した。
11月10(木)、15(火)、21(月)、12月6(火)、23(金)、1月13(金)、18(水)、30(金)、2月16(木)

実務者会議は合計18回実施した。

< 実証実験 >

令和3年度までに改修したシステムについて、機能拡充のため今年度のシステム改修を追加施工し、あらためて動作確認も含めて実施した。当法人とシステム会社以外の利用を想定する方にURLとID、パスワードを公開、実際に利用する環境を見ていただいた。

また実証実験にあたり操作マニュアルを作成し配布した。実証実験の内容は以下のとおり。

○ 企業などの食品提供者

- 最初にURLとID、パスワードによるログインができるのかを確認。ログイン後は各社から出されるであろう提供品や過去提供いただいた食品を実際に画面で入力いただいた。
- ログインできない、など情報環境に合わせる対応を行った。入力できないなど担当者の操作方法によるのか、システム側の問題かなど、担当者が困っている箇所の対応を行った。
- システムを運用していただき、事務局やシステム会社が気づかなかった不備や分かりづらい点を確認した。

○ 事務局としての当法人

- 事務局は当法人が担う。事務局環境で企業の入力情報が事務局環境でどう見えるかを確認した。
- 事務局画面の表示や動作の不備を確認し、対応を検討した。
- 入力のメール通知などURL以外の動きを確認した。
- 見え方の不具合についてシステム環境によるものかを検討、対応について検討した。

○ フードバンクなど利用団体

- 最初にURLとID、パスワードで各自のデバイスでログインができるのかを確認した。企業の提供品情報を事務局が発信した際、どのように見えるのか、実際の利用団体に確認いただいた。
- 見え方の不具合についてシステム環境理由かなど原因の考察と対応を検討した。
- 今期では修正できない部分など運用でのカバーを検討した。

実証実験は今年度改修したマッチングシステムを実務者以外に触れていただき、システム環境で不具合がないか、意図しない動きがないか、運用で不具合がないかを実際の画面で確認したことが最大の実施内容となった。

また提供者、事務局、利用団体それぞれでマッチングシステムが導入された後の業務の流れと作業時間、業務負荷の変化の予測を立てていただいた。

実証実験期間中に寄せられた意見や質問から、実証実験後の改修を行わないため、運用でどのようにカバーするかなど検討した。

< 実証実験参加企業、組織、機関 >

農林水産省 関東農政局 経営・事業支援部食品企業課

株式会社横浜岡田屋

テルウェル東日本株式会社

一般社団法人福岡県フードバンク協議会

公益社団法人フードバンクかながわ

特定非営利活動法人ふうどばんく東北AGAIN

特定非営利活動法人フードバンク愛知

特定非営利活動法人フードバンク浜っ子南

特定非営利活動法人報徳食品支援センター

満福こども食堂

< 実証実験期間 >

1月23日（月）～2月3日（金）

< 成果共有会 >

3月20日（月）

関係者を招き3年間のマッチングシステム構築の経緯と成果を報告する。防災備蓄品の活用とコーディネート料の支払いなど、システム活用を説明した。

7. マッチングシステムの概要

＜令和2, 3年度におけるマッチングシステムの開発状況＞

マッチングシステムの開発について、令和2年度は当法人が地域の子ども食堂や困窮者に食品を直接支援する地域のフードバンクへの食支援「ビーバーリンク」での使用を想定してマッチングシステムを試作した。続く令和3年度は規模や形態の異なるフードバンクでの活用と、冷蔵・冷凍・青果など異なる温度帯での使用を想定し改修を行った。

＜令和4年度のマッチングシステム開発のコンセプト＞

令和4年度のマッチングシステム構築作業を開始するにあたり、当法人のこれまでの経験と課題認識をもとに改修項目の優先度と重要度を検討した。当法人の考えた改修項目について、今年度よりプロジェクト支援をいただくこととなった富士通Japan社と検討し改修項目を詰めていった。改修項目のコンセプトは以下であった。

① 防災備蓄品のマッチングを想定

主要な取り扱い食品は防災備蓄品を想定。数量表記や包装の中身など防災備蓄品の取り扱いに必要な項目をイメージした画面内容の整理とする。前年度までに作成した画面で、わかりにくい表記や入力項目で、改修すべき部分を決めて実用的な内容で画面整理することが今回の最重要事項とした。温度帯管理はそれほど必要ない項目として、これ以上の対応は行わないなど、重要な項目だけ改修することとした。

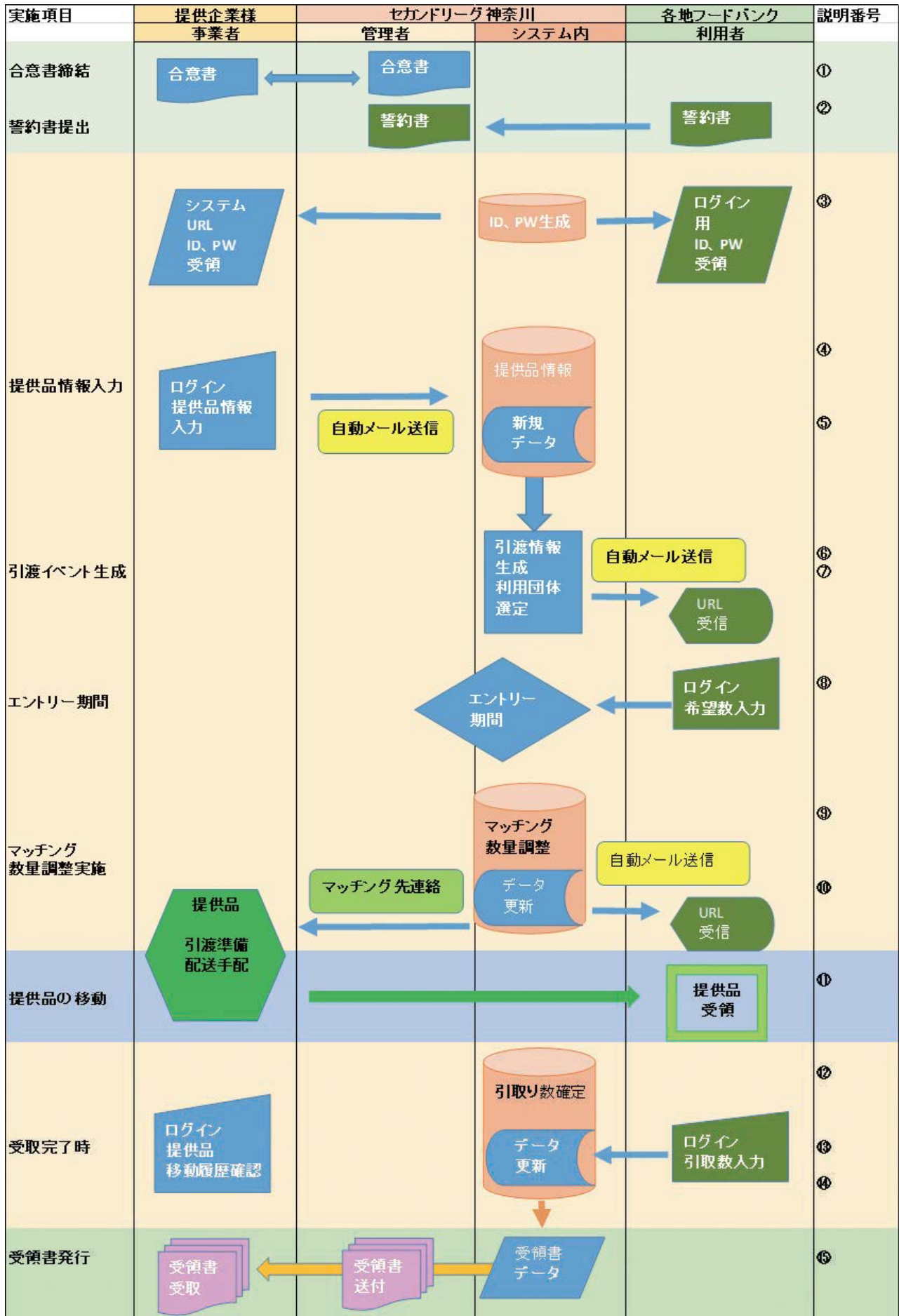
② 各地の中間的なフードバンク団体での使用を想定

小規模な子ども食堂、フードバンクの使用は想定せず、現場で活動するフードバンクや子ども食堂を支援する全国各地の中間的なフードバンク団体での使用を想定する。事務局職員がパソコンで操作することを想定し、モバイル対応は行わずパソコン使用時における利用しやすさ、見やすさに集中して対応する。また操作マニュアルを用意することで利用団体が対応できる範囲であれば、運用での対応をお願いすることとし、必要最小限の改修対応で行うこととした。

③ 当法人が事務局として運営することを想定

システム運用者は当法人が行うことを前提とし、システム改修を行わず担当者の運用で対応できる部分は運用者の操作マニュアルの用意で対応するとし、改修項目は食品提供者と利用団体側に集中し、運営者画面の改修は必要最小限とすることとした。

8. マッチングシステムフロー



＜マッチングフロー補足説明＞

- ① 食品寄贈の合意書：提供企業（以下、事業者）と当法人（以下、管理者）で締結。
- ② 食品受領の誓約書：フードバンク団体等（以下、利用者）より食品受領の誓約書を受領。
- ③ 登録用URL,ID,PW：事業者用URL、ID、PW、利用者用ID、PWを生成し発行。
- ④ 提供品の情報：事業者が発行されたURLに提供品の情報を入力し登録。
- ⑤ 自動メール：事業者が提供品の登録が完了すると、システムにデータが登録、自動送信。
- ⑥ 新規データ：登録された情報を利用者用データに加工し、利用先を選定し、データを更新。
- ⑦ 自動メール：利用者に公開された提供品情報が送信。同希望数入力可のデータが自動送信。
- ⑧ 希望数エントリー：利用者が希望数を登録すると、管理者にデータが自動送信。
- ⑨ マッチング：エントリー終了後、希望数を調整し、引渡数の登録後、データが更新。
- ⑩ 自動メール：提供品の引渡数が利用者に自動送信。別途事業者へマッチング先の連絡。
- ⑪ 提供品引き渡し：事業者より利用者へ提供品の引き渡し実施。
- ⑫ 引取数確認：引き渡し終了後、引取数入力可のデータを利用者に自動送信。
- ⑬ 受取数確定：利用者は実際に受け取った数量を登録、保存にて確定。
- ⑭ 移動履歴：事業者は管理者を通じた利用団体の履歴が確認可能。
- ⑮ 受領書：受取数確定により、事業者より受領書を事業者へ発行。

9. 事業者画面

* 合意書を締結後、管理者よりURL、ID、パスワードが付与され、そこからログイン。

(1) トップ画面

➡入力者名が表示されているため、誤入力を防ぐことができる。

事業者画面

事業者 トップ

寄付品

事業者 トップ ー 横浜岡田屋 長本 様 ようこそ

📁 寄付品情報

寄付品情報を照会する場合はこちら

寄付品一覧

🔧 その他マスタ管理

その他マスタの管理はこちら

商品マスタ

マニュアル

ログアウト

(2) 提供寄付品登録

➡提供情報、提供条件のほか、管理者へのコメントによりマッチング開始日や、提供者への情報を入力することで依頼したい内容を登録することができる。

事業者画面

寄付品新規登録

現在登録されているものはありません

確定

新規寄付品内容登録

品名 必須

大分類 必須

中分類 必須

消費・賞味期限 必須

ケース数 必須

入り数 必須

規格

アレルギー情報 (複数選択可)

保管場所 必須

保管場所住所

提供方法 必須

提供者への情報

寄付品一覧に追加

(3) 提供品マスタ登録

➡定期的に提供する情報をマスタで登録することで、作業負担が軽減できる。

マスタ登録では、全項目を入力しなくても、品名のみでも登録が可能。

事業者画面

商品マスタ 新規登録

品名 **必須** 大分類 中分類

ケース数 入り数 ② 規格 ②

保管場所 保管場所住所 提供方法

提供者への情報 アレルギー情報 (複数選択可) ☐ 無効にする

(4) 寄付品一覧

➡新規登録だけでなく、すでに登録済みの情報も一覧で確認することができる。

検索項目を入力することで、必要な情報のみ確認することも可能。

事業者画面

寄付品一覧

新規入力

ステータス 提供日 大分類 中分類 提供方法 品名

すべて 検索

1 - 2 件表示 / 全 2 件中

品名	ケース数	入り数	規格	提供方法	提供日
HOZONHOZN	10	25		配送	
和風鯛ごはん	10	25	280g	配送	2023-02-10

1 - 2 件表示 / 全 2 件中

(5) 寄付品詳細情報：変更・確認

➡寄付品の提供の移動の履歴が確認できる。

提供者（管理者）から利用団体（フードバンク、子ども食堂等）名が確認できる。

事業者画面

ホーム

寄付品

ヘルプ

ログアウト

寄付品詳細情報 確認・変更

更新

寄付品詳細移動履歴

移動種別	移動元	移動先	利用団体	移動日 ②	移動数	単位	内容量
事業者寄付	セカンド神奈川	セカンド神奈川	セカンドこども食堂	2023-02-10	9	箱	
利用団体引渡	セカンド神奈川	セカンド神奈川	セカンドフードバンク（仮）	2023-01-13	1	箱	

10. 利用者画面

(1) 誓約書を締結後、

管理者からID、パスワードが付与され、登録したメールアドレスに送られてきたURLにログイン。

フードバンク☆☆☆ 様

引き渡し情報の希望数が入力可能になりました。

リンクをクリックして引き渡し情報を確認してください。

ごはん類提供(開催日：2023/02/14 ～ 2023/02/14 場所：BL鶴見)

https://foodbank.sl-kanagawa.*****

メール画面

(2) 利用団体：トップ画面

➡入力者名が表示されているため、誤入力を防ぐことができる。

利用者画面

利用団体 トッピーやまだ だいすけ 様 ようこそ

引渡し情報

引渡し情報を照会する場合はこちら

引渡し一覧

(3) 引き渡し一覧

➡引き渡しイベント情報として、提供品の引き渡し場所、エントリー期間等を確認できる。

検索に期間を入れることで、活動に見合うイベント情報に絞ることができる。

利用者画面

タイトル	エントリー期間	引き渡し場所
寄付品一覧 BL新横浜	2023-02-27 ~ 2023-06-30	セカンド神奈川
寄付品一覧 ビーバーリンク新横浜	2023-02-27 ~ 2023-06-30	セカンド神奈川
寄付品一覧 新横浜ントリー	2023-02-17 ~ 2023-02-17	セカンド神奈川
寄付品一覧 テスト用引き渡し 2月10日	2023-02-10 ~ 2023-02-13	セカンド神奈川

(4) 引き渡し寄付品一覧

➡イベント情報の寄付品一覧から引き渡しの条件と提供品情報を確認することができる。

エントリー期間内であれば、希望数の変更・修正が可能。

利用者画面

品名	数量	単位	内容量	消費・賞味期限
テスト用ごはん	10	箱		2023-06-01

(5) 寄付品詳細

➡引き渡し一覧の品名から、寄付品の情報、状態（温度帯）、総数、アレルギー情報などを確認することができる。また管理者からの連絡事項としてメッセージを確認できる。

利用者画面

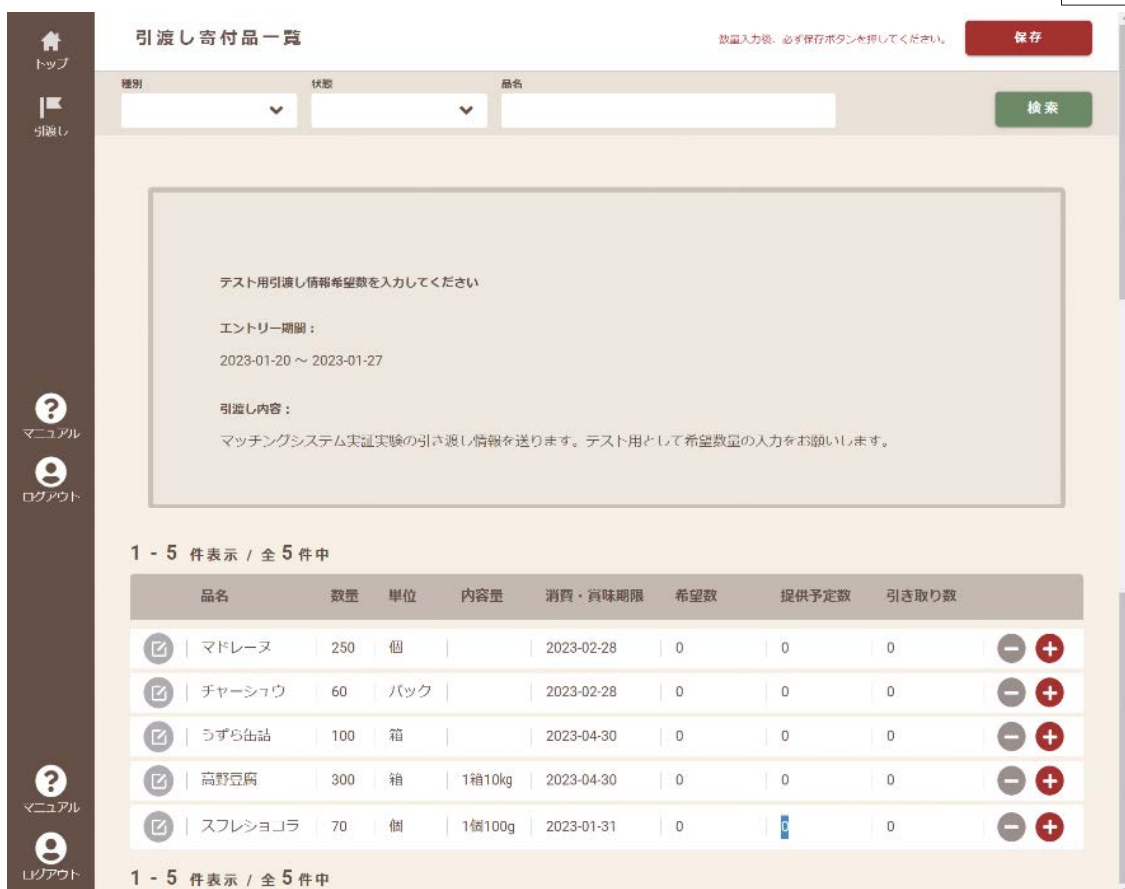


(6) 寄付品希望数入力

➡寄付品一覧の下部に希望数入力可の表示が出ている場合は、希望数を入力できる。

引き渡し後、実際に引き取りした数量を入力し、保存することで引き渡しが完了となる。

利用者画面



11. 管理者画面

(1) トップ画面

➡管理者名が確認でき、この画面より事前に登録を行う。

管理者画面



(2) 事業者・利用団体管理

➡合意書を締結した事業者情報を登録、変更、追加ができる。

同様に、誓約書を締結した利用団体の登録、と利用団体グループ登録もできる。

※利用団体グループでは、フードバンク、子ども食堂等の区分や、地域区分などをグループ分けすることで、情報を発信したい活動体や地域を選定することができる。

管理者画面



(3) 寄付品マスタ管理、その他マスタ管理

➡提供品のカテゴリー（温度帯、種別）を設定、引き渡し場所や、商品名等をマスタ登録することで、事業者からの提供時に登録情報入力負担軽減になる。

管理者画面

大分類名称	中分類名称	無効フラグ
常温品	主食（コメ、パン） 総菜 菓子 調味料 雑貨 その他 +	OFF
冷蔵品	総菜 菓子 調味料 その他 +	OFF
冷凍品	総菜 菓子 調味料 その他 +	OFF

(4) 寄付品管理

➡事業者からの着信メールから入力された寄付品を確認することが出来る。

管理者画面

寄付品情報

提供事業者名 必須 横浜岡田屋 長本 品名 必須 和風鍋ごはん 大分類 必須 常温品 中分類 必須 主食（コメ、パ...

消費・賞味期限 必須 2024-08-31 ケース数 必須 10 入り数 必須 25 規格 280g

数量 必須 10 単位 必須 箱 内容量 アレルゲン情報（複数選択可）

➡事業者からの連絡事項により、マッチング開始日を未来設定することが可能。

保管場所 必須 二幸運送 保管場所住所 提供方法 必須 配送 提供者への情報

引渡し可能日 2023-02-10 引渡し場所 セカンド神奈川 利用者への情報 1箱単位でお渡しします。 総重量

マッチングアラーム ☒ 即時マッチング

(5) 引き渡し管理

- ➡提供品を引き渡しイベントとして利用者向けの情報を生成、利用者向けの連絡事項も追記でき、情報公開（告知）、エントリー（希望数入力）、引取数登録（確定）の3段階のメール送信ができる。

[管理者画面](#)

トップ

引渡し

寄付品

マニュアル

ログアウト

引渡し情報 確認・変更

オーダー篇

更新

引渡し情報

タイトル 必須

BL新横浜

引渡し場所 必須

セカンド神奈川

利用団体グループ（複数選択可） 必須

セカンドリーグ仮

エントリー期間 必須

2023-02-27

×

2023-06-30

×

引渡し内容

公開する

希望数入力可能にする

引き取り数入力可能にする

☒

☒

☐

(6) 寄付品詳細情報 確認・変更

- ➡提供品を引き渡した流れを履歴で確認することができる。個別な引き渡し等で、引き渡しを追記で登録することで、より詳細の履歴情報管理ができる。

[管理者画面](#)

トップ

引渡し

寄付品

マニュアル

ログアウト

寄付品詳細情報 確認・変更

更新

寄付品詳細

移動履歴

保管場所情報

移動種別	移動元	移動先	利用団体	移動日 ⑦	移動数	単位	内容
  事業者寄付	セカンド神奈川	セカンド神奈川	セカンドこども食堂	2023-02-10	9	箱	
  利用団体引渡	セカンド神奈川	セカンド神奈川	セカンドフードバンク(仮)	2023-01-13	1	箱	

+

移動種別 必須

移動元

移動先

利用団体

(7) 寄付品管理：受領書

➡引き渡し完了後、受領書をPDFで発行することができる。

管理者画面

トップ

引渡し

寄付品

マニュアル

ログアウト

受領書出力指示

現在選択されているものはありません

印刷

提供事業者名 **必須**

納入日 **必須**

横浜岡田屋 長本

2023-02-01

2023-02-28

検索

1 - 1 件表示 / 全 1 件中

☐	区分	品名	入り数	ケース数	総重量	消費・賞味期限	受領日
☐	常温品	和風鯛ごはん	25	10		2024-08-31	2023-02-10

1 - 1 件表示 / 全 1 件中

受領書印刷プレビュー

閉じる

印刷

発行日: 年 月 日

受領書

横浜岡田屋 長本 様

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川
神奈川県横浜市港北区新横浜3-18-16
TEL: 045-470-5564 FAX: 045-470-4178
EMAIL: sl-test@pal.or.jp

下記止に受領しました。

区分	品名	入り数	ケース数	総重量	消費・賞味期限	受領日
常温品	和風鯛ごはん	25	10		2024-08-31	2023-02-10

(8) 以上の流れにより、提供からマッチング、引き渡し完了となる。

12. マッチングシステムの機能と特徴

【機能】

1. 提供事業者と合意書、利用団体と誓約書の締結のチェック
2. アラーム機能 ※ 1
3. メール自動送信機能 ※ 2
4. 移動履歴確認機能
5. 受領書発行機能

※ 1 … マッチング開始日を先の日付で登録し、期日が到来した際、アラームが送られる

※ 2 … 事業者が登録した際、事務局に通知がされる。またマッチング開始時に該当する利用者に通知する機能

【特徴】

1. 契約書等を締結済みの確認ができる
2. 事前登録、提供日予約が可能となる
3. 自動送信により連絡の負担軽減できる
4. 利用団体、利用状況を終了後も確認できる
5. 受領書と連動することで、入力ミス、漏れをなくすることができる

13. 今後のマッチングシステムの利用について

＜ 防災備蓄品を中心としたシステム利用を開始 ＞

令和5年4月より当法人が運営者となり、全国の企業や団体から、それぞれが保有する防災備蓄品の新旧入れ替え時の旧備蓄品活用のマッチングを行う予定。マッチングにあたってはメールや電話のほか今回、開発したシステムも活用する。またマッチング成立時には提供元の企業、団体からコーディネート料をいただきシステムの運用費用に充当する方向で検討中である。

＜ 独自に使いたいフードバンクにはシステム会社を紹介 ＞

防災備蓄品の提供と利用は当法人を運営者としマッチングを行うが、各地のフードバンクで自組織のシステムとして今回製作したマッチングシステムを使いたい場合は、各組織でクラウド環境の構築とマッチングシステムの設定を行うこととなる。当法人はこの開発に要した費用は請求しない。各組織はそれぞれのクラウド環境と導入の作業費をシステム会社と相談しそれぞれで導入いただく。システム会社の紹介は当法人も協力する。

＜継続にあたっての課題＞

今回をもってマッチングシステム構築はいったん完了となる。クラウド環境などシステム維持や保守サービス費用、今後必要となるであろう改修費用の捻出については依然として課題となっている。マッチングにあたってのコーディネート料での充当も見込んでいるが、全ての費用をまかなうには不足するため、今後の大きな課題である。

14.3 年間の支援事業を終了するにあたり

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川（以下、当法人）は令和4年10月に法人化満10年の節目を迎えました。設立当初、当法人は『私たちは、心豊かな地域社会をつくるために、地域の人びとやコミュニティ、行政に働きかけて社会的価値ある活動や事業を支援します』をミッションに掲げ、すでに地域で子育て支援、障がい者支援、高齢者福祉、環境や食を守る、生活困難を支えるなどの課題に取り組む団体や人びとを支援する中間支援組織として活動を開始しました。

設立初期には地域の役に立ちたいと考える人の起業支援や、地域で活動する子育て支援団体や保育のコーディネート等を事業の中心としていました。これらの活動を行うなかで、私たちが普通と思っていた社会にも経済的な格差が広がっていることや、一見問題なく見える方でも生活に困る方がいて、その人数が“じわじわ”と増えていることを実感しました。

活動から感じ取った社会の変化を活動に移すこととし、平成29年度からかながわボランティア活動推進基金21の支援を受け、『「食」と「地域」をつなぎ神奈川から「貧困」をなくす K-Model』で食品ロスの削減と生活困窮者等の支援を開始。この活動は当法人の設立母体である生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ（名称当時）とパルシステム生活協同組合連合会の支援を受け、食支援「ビーバーリンク」として神奈川県内の多拠点で毎月食品を提供する活動に発展、現在も内容をブラッシュアップしながら当法人独自の活動に育ちつつあります。

「ビーバーリンク」の運営者として当法人が実際に食支援の当事者となるなか、効率的で便利な食料品支援の調整ができたらと考え、今回報告させていただく農林水産省の「フードバンク活動マッチング支援事業」（以下、マッチング支援事業）の取り組みに至っています。

まだ対応の定まっていない課題を認識し、そこにに関わり、解決の糸口を見つけていく中間支援組織として、当初から明確な答えを持ち合わせていないこともあって、この支援事業にも紆余曲折がありました。そのようななかで根気よく当法人を見守り、時に叱咤激励いただきながら、一定のシステムを構築することができました。ここにこの3年間にわたるマッチングシステム構築の成果を報告させていただきます。あらためてマッチング支援事業にご協力いただいたみなさまにお礼申し上げます。

特定非営利活動法人 セカンドリーグ神奈川事務局

心豊かな地域社会を創造したい

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

(お問合せは下記まで)

住所 横浜市港北区新横浜3-18-16 新横浜交通ビル

電話 045-470-5564

HP <https://www.sl-kanagawa.org/>

メール sl-kanagawa@pal.or.jp

事業名一覧

令和2年度農山漁村6次産業化対策事業のうち持続可能な循環資源活用総合対策事業「フードバンク活動マッチング支援事業」(令和2年4月～令和3年3月)

令和3年度農山漁村6次産業化対策事業のうち持続可能な循環資源活用総合対策事業「フードバンク活動マッチング支援事業」(令和3年4月～令和4年3月)

令和4年度食品ロス削減総合対策事業のうち食品ロス削減推進事業「フードバンク活動マッチング支援事業」(令和4年4月～令和5年3月)

発行 令和5年3月20日

発行者 セカンドリーグ神奈川事務局



Beaver Link®